

水稻新品種「ナカセンゴク」について

山川 寛* ・松永 健治** ・野口 繁*** ・西山 寿****
溝口徳三郎***** ・林田 進***** ・本村 弘美**** ・藤井 啓史****

YAMAKAWA, Y., MATSUNAGA, K., NOGUCHI, S., NISHIYAMA, H.,
MIZOGUCHI, T., HAYASHIDA, S., MOTOMURA, H. & FUJII, K.
On the New Variety of Paddy Rice Plant Nakasengoku

昭和28年本品種の育成を終り、昭和29年福岡、佐賀、熊本各県において奨励品種に採用、普及されるに至つたので、育成の経過並に特性の概要を述べて参考に供する。

種で、やや短程、穂数型、草状は良好である。脱粒性は難であつて、籾に短芒を有し、稈先は褐色を呈する。(第1表)

来歴並に育成経過

ナカセンゴクは昭和18年農林省農事試験場九州小麦試験地において、東海旭を母とし近畿39号を父として人工交配を行い、昭和21年熊本県農業試験場における農林省指定水稻新品種育成試験の供試材料として、その雑種第3代種子を配布して選抜に当り、次いで昭和22年より農林省佐賀農事改良実験所、更に昭和26年より農林省九州農業試験場に試験を移管して選抜固定をはかり、昭和25年3月西海45号なる系統名を以て関係各県に配布して地方的適否を確めた結果、その成績は良好で昭和29年度に水稻農林87号に登録され、ナカセンゴクと命名された。

第1表 一般特性

品 種 名	出穂期		成熟期		結実目数	程長	穂長	穂数	芒の少長短		脱粒難易
	月日	月日	日	日					本	稀短	
ナカセンゴク	9.8	10.29	51	84	20.5	18	稀短	無	難		
(比較)農林37号	9.6	10.24	48	96	21.2	16	無	難			
(〃)農林12号	9.11	11.4	54	96	21.5	16	無	易			
(〃)宝	9.11	11.6	56	88	21.7	15	無	易			
(参考)農林18号	9.13	11.9	56	93	21.8	15	無	易			

葉稻熱病耐病性は農林12号程度で農林37号よりやや劣り、穂首稻熱病に対しては農林12号、農林37号に優る、白葉枯病耐病性は農林37号、農林12号より強く、線虫心枯病耐病性は中程度であり、また程蠶に対しても抵抗性がある。極めて強程で倒伏に強い。(第2、3表)

特 性 概 要

熟期は農林37号に比べやや遅い中生の晩に属する梗

第2表 耐 病 性

品 種 名	葉 稻 熱 病			穂 首 稻 熱 病			白 葉 枯 病			胡 麻 枯 病	線 虫
	昭26	昭27	昭28	昭 2 6	昭 2 7	昭 2 8	昭26	昭27	昭28	昭26	心枯病
ナカセンゴク	多	中	中	14.8%	19.8%	微	中少	微	微	少	4.7%
(比較)農林37号	中	微	少	45.0	45.2	中	甚	中	一	中	—
(〃)農林12号	多	中	中	26.6	26.5	少	少	少	少	少	—
(〃)宝	中	中少	甚	32.2	63.0	多	多	少	微	少	—
(参考)農林18号	中	中少	甚	13.9	39.8	少	少	少	微	微	2.3

備考 穂首稻熱病の数字は罹病率を、線虫心枯病の数字は発病率を示す。

* 佐賀大学 **長崎縣農業改良課 ***佐賀縣農業改良課 ****九州農業試験場 *****島根縣農業試験場 *****熊本縣農業改良課

第3表 耐虫性及び倒伏

品 種 名	程蠅被害穂率		倒 伏			
	昭27	昭28	昭25	昭26	昭27	昭23
ナカセンゴク	0.9	4.8	少	中	中	中
(比較)農林37号	16.2	27.8	甚	甚	甚	甚
(〃)農林12号	2.3	3.2	甚	少	多	中少
(〃)宝	2.0	—	甚	少	多	中少
(参考)農林18号	—	—	甚	—	多	中

収量は中生種の代表品種である農林37号より多収であり、殊に多肥、晩植栽培においては、晩生種の農林12号、宝、農林18号に対しても優るとも劣らない成績を示す。玄米は中粒で品質並に食味は良好である。(第4表)

適 地

九州各県農業試験場における試作成績によれば(第5表)、北九州における山間山麓から平坦部の地力中層以上の水田に適するものの如く、南九州の温暖瘠薄

第4表 収 量

品 種 名	標 準 栽 培					多 肥 栽 培		晩 植 栽 培		検 査 等 級
	精 粗 歩 合	粗 摺 歩 合		反当玄米 容 量	比 率	反当玄米 容 量	比 率	反当玄米 容 量	比 率	
		重 量	容 量							
ナカセンゴク	47%	84%	62%	3.143石	108%	3.193石	111%	3.238石	110%	3
(比較)農林37号	49	83	62	2.915	100	2.871	100	2.945	100	2
(〃)農林12号	45	82	61	3.125	107	2.943	103	3.053	104	3
(〃)宝	47	82	61	3.117	107	2.961	103	3.103	105	4
(〃)農林18号	47	83	61	3.222	111	3.034	106	3.056	104	3

備考 1) 昭25~同23年4ヶ年平均 2) 多肥栽培は標準栽培の5割増肥 3) 晩植栽培は6月5日播種、7月20日移植

第5表 九州各縣農試における試作成績(反当玄米収量)

品 種 名	福 岡		佐 賀		熊 本		長 崎	大 分	宮 崎		鹿 兒 島		
	本 場		本場	三瀬	本 場		阿蘇	本場	本場	本場	都城	本場	
	標肥	多肥	標肥	標肥	標肥	標肥	多肥	標肥	標肥	標肥	標肥	標肥	
ナカセンゴク	2.65 (101)	2.84 (105)	2.88 (102)	3.28 (106)	119.6 (101)	2.93 (103)	2.99 (105)	3.30 (100)	3.24 (102)	2.99 (93)	2.58 (99)	2.52 (98)	2.25 (83)
(比較)農林37号	2.63 (100)	2.72 (100)	—	3.09 (100)	—	—	—	—	3.19 (100)	—	—	—	—
(〃)農林12号	2.45 (93)	—	2.85 (100)	—	—	2.82 (99)	2.72 (96)	—	—	—	—	—	—
(〃)千本旭	—	—	—	2.96 (96)	118.0 (100)	—	—	—	—	—	—	—	—
(〃)宝	—	—	—	—	—	2.85 (100)	2.84 (100)	3.31 (100)	—	—	2.62 (100)	2.58 (100)	—
(〃)旭1号	—	—	—	—	—	2.62 (92)	2.18 (77)	3.33 (101)	—	—	—	—	—
(〃)晩生旭	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3.20 (100)	—	—	—
(〃)農林18号	2.53 (96)	2.71 (100)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.73 (100)
(〃)大分三井 120号	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.85 (89)	—	—	—
供 試 年 数	4	4	2	4	4	4	3	2	3	4	4	4	1

備考 括弧内は比率を示す

第6表 福岡、佐賀、熊本縣下における試作成績

地帯	試作 点数	増収 点数	減収 点数	比較品種
山間地帯	13	13	0	農林37号, 農林12号, 福神
山麓地帯	22	20	2	農林37号, 農林12号
平地地帯	18	11	7	農林18号

備考 昭和27年、28年2ヶ年の成績

地では優位性を示さなかつた。

また福岡、佐賀、熊本各県内の試作成績をみるに(第6表)、山間、山麓及び平坦の何れの地帯においても多収性を示しているが、適応地の重点は主に前2地帯であつて、平地地帯では水田作付体系の合理化という点で貢献するところが大きいと思われる。なお四国4県、山口、広島、静岡、千葉の各県農業試験場においても適応性が検討されたが、この場合は比較品種

に対して減収を示した。

結 言

以上の結果から考察して、ナカセンゴクは北九州の山間地帯の晩生種及び山麓から平地地帯の中生のややおそい品種として好適するものと考えられる。殊に山間山麓地帯においては従来農林37号、農林12号、千本旭、宝等が栽培され、これらの品種の弱稈或は耐病性弱という欠点のため屢々減収と品質の低下を来していたが、これに対してナカセンゴクは強稈多収で且つ耐病性も強いので、今後前記の各品種にかわつて相当に普及するであろうと思われる。

また平地部においては水稻の刈取期の繰上げによる後作作付体系の合理化(例えば菜種の直播)及び水田夏蔬菜跡地、煙草跡地または飼肥料作物栽培後の晩期栽培用品種としてその将来性が期待される。